

---

**おはようココ日本。**

パンタローネ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おはようココ日本。

### 【Nコード】

N3367C

### 【作者名】

パンタローネ

### 【あらすじ】

まあ事件的な感じで、解決する感じで、そんな感じで物語が進んでいくんですが、詳しくどんな感じですか??? 何て聞かれますと……… 感じます。

## 【第1話】

俺の名前は紅茶<sup>こうちや</sup>。ふざけた名前だろ???え???あっ...うん。  
そんなに正直に言われると、きつついなあ.....。  
まあいい。

俺の仕事は正義だ!!!ジャステイスだ!!!何かって???俺の  
...ん???いやっ、あれ????

あの...聞いてもらっていいでしょうか???いやっすぐ終わります  
から...はい。

何か言いにくいなあ...。  
まあいい。

俺の仕事は刑事だ!!!正義が仕事だ!!!  
なぜ俺が刑事になったかって言うと.....

《チエキチエキ チエキチエキ》

おっと電話だ!!!

じゃあ、とりあえずこの続きはまた今度で。  
事件かもしれねえな。

『はいもしもし、こちら甘口署です』

『あのお、お聞きしたい事があるんですが???』

『はい。なんででしょうか???』

『紅茶さんと言う方はいらっしやいますか???』

『え????あつ、はい。私がそうですが』

『あなたが、紅茶さん????』

『はい。私が紅茶ですが。何か????』

『ふざけた名前だな!!!』

『えつ????』

《ブチッ!!!……ツーツーツー》

『えええええ????何これ????いきなり何????イタズラ電話?  
??何かへこむわあ……』

《ドタドタドタ……ガチャ》

『大変だあああああ!!!』

『どうしたんだよ!!!うるさいよお前は。俺今へこんでんだよ……  
グスッ』

『あつ????乾杯!!!』

『先輩だよ!!!何でいきなりお前とパーティー始めなきやいけな  
いの!!!』

『あ、うん』

『おおおい!!!友達???俺とお前は友達か???』

『ははっ』

『愛想笑いはやめて!!!もう傷つきたくないから』

この明らかに先輩の俺をナメてやがるのは、俺の後輩の名前は元気。名前通りものすごく元気で、シンプルに疲れる。でも、一応俺の相棒だ。

『で、何が大変なんだ???』

『テンパイ。あのですね...』

『こらっ!!!何で???いつお前とマージャンやってたのかな???教えて下さい』

『先輩さつき妙な電話かかってきませんでした???』

『妙な電話???ああ、イタズラ電話の事かコラ!!!』

『イタズラ電話ですか???そいつ完全に警察ナメますね!!!』

『ホントだよ!!!今度は心折れないから』

『その意気ですよ!!!ふざけた名前の先輩』

『うん。お前だなコラ!!!よし決めた!!!お前を逮捕する』

『ちよちよ、ちょっと待って下さいよ。それどころじゃないんですよ!!--!』

『俺は今がターニングポイントだと確信している』

『大変なんスよ!!--!事件ですよ!!--!事件!!--!』

『えっ????』

『ここからすぐ近くのカレー店で殺人事件があつたんですよ!!--!』

『何で早く言わないんだよ!!--!何時だ????』

『自分がここに走ってきて、ドア開けて、大変だあああつて叫んだほんの3分前です』

『早く言えよ!!--!何で妙な電話の方を先に言ってるの???それはとりあえず後じゃん!!--!』

お前はなあ、何で刑事になったの???刑事と言つのは……』

『おい!!--!行くぞ!!--!早くしろ!!--!』

『……はい』

こうして先輩紅茶。後輩元気は事件現場のここからすぐ近くのカレー店に一輪車で向った。

続く。



## 【第2話】

【あらすじ】

もう事件だ事件だって騒ぐのやめて!!!僕…気いちっちゃいねえ  
くん。

『はあ、はあ…何で、はあ、一輪車なん、はあ、だよ。』

疲れまくっている紅茶の横にビッチリとタクシーが止まった。  
紅茶は疲れきっている為、少しムツときたが無視……

『おつりいらないから。領収書いい????甘口署の紅茶で』

できなかった。紅茶の疲れは一気にぶっ飛んだ!!!

『おい!!--!!--!』

『ここかあ。事件の臭いがプンプンしやがるぜ!!!』

『おいっ!!--!!--!』

『えっ????あっ!!!先輩。ここですよ事件現場は』

『違うだろ』



『いや、二二二ですよ』

『うん。そうじゃなくて』

『何がですか???もしかも何で疲れてんすか???』

『一輪車は!!!お前の一輪車はどこなんだ???』

『署にありますけど……ええ???そんなバカな???』

『ああ俺はバカだよ!!!何してんの???何でタクシー使っちゃったの???経費削減期間中じゃん』

『心配いりませんよ!!!領収は先輩できましたから』

『何で笑顔で言えるの???すごいSじゃん!!!しかも、すぐ近くのカレー店って言ったよね???80キロは近くとは言わないよ。俺、一輪車乗れないのに』

『はは。』

『……うん。もう…行く』

ハイテンションの元気で、どん底に落とされた紅茶は現場に入った。

おいしそうなカレーの匂いが店内にひろがっている。

その店内では、鑑識の人達が現場を慎重に、かつ、カレーをちょこちょこつまみながら

調べている。

店内の隅のテーブルに5人座っていた。そこだけ完全にドンヨリした雰囲気だ。

すると、紅茶と元気に気付いた警官。

『あっ！！！』

『おう。現場の状況は？？？』

紅茶はもう落ち込んでいない。さすがは、正義を背負う者だ。

『関係者以外は出てっ！！！』

もうダメだあ……………

『おいっ！！！何言ってるんだ！！！甘口署の紅茶さんだぞ！！！』

『元気……』

なんだかんだ言っ！こいつは頼りになる相棒……………

『出て行け！！！紅茶！！！』

じゃない!!!もう、こいつは信じない!!!

『すみません。甘口署の方でしたか』

『まあ、いいよ。状況は???』

『はい。今鑑識の方達が現場を調べていまして、1つわかった事が』

『なんだ???』

『ポークカレーが一番だと』

『お前もう帰れよ!!!鑑識も帰らせる!!!』

『まあまあ、惨敗』

『ボ口負けじゃねえか!!!そんなに負けてねえよ!!!先輩だつて言ってるんだろ』

『まあまあ。そんな事よりあそこのテンション低い5人は誰ですか???』

『はい。あの5人はですね、店長と店員2名とお客さんと仙人です』

『おいつ。1人おかしいヤツいたなあ。なあ、元氣』

『冗談何て言ってる場合じゃないですよ』

『何で????いたじゃん!!!!1人いるじゃん!!!!』

『あの5人連れて来てもらえますか????』

『はい』

警官はダルそうつに5人を連れてきた。

『ああ…しんどっ。連れてきました』

『お前警官やめろよ!!!!!!』

『先輩!!!!!!仕事ですよ!!!!!!』

『あつ…はい。何でえらそうなの????俺、先輩なんだけどなあ』

5人は近くで見ると、やっぱりテンションが低い。

こうして紅茶と元気の5人への事情調査が始まった。

続く。

### 【第3話】

【あらすじ】

もう良い事も悪い事も聴いちゃえ!!!

テンションの低い5人から紅茶、元気は1人づつ呼び、事情調査を始めた。

元気がまず1人目を呼んだ。

『いらつしゃいませえ!!!今日は1人ですか???お客さんも好きですねえ』

紅茶は少し笑ってしまったが、すぐに注意した。

『おい!!!遊びじゃねんだよ!!!早く連れて来いや』

『ノリ悪っ!!!』

『おい!!!聞こえてんですけど!!!てめえ、やっっちゃござ!!!』

そうこうしてる内に1人目が喋り始めた。

『私はやってない!!!もう帰らせてくれ!!!』

テンションが一気に上がったみたい。

紅茶が落ち着かせる。

『まあまあ。落ち着いて。とりあえずお名前を』

ため息をつきながら喋り始めた。

『俺は海賊王になる!!!』

『お前じゃねんだよ元気!!!少し、いや、かなり黙ってる!!!』

『はいつ!!!』

『返事だけはいいなあ』

『あのお...』

『おっと、すみません。ではお名前を』

ようやく1人目だ。

『私の名前は辛口からくちです。このカレー屋の店主です』

『あなたが店主でしたか。ここのお勧めはなんですか???』

『今それ関係ないだろが!!! 帰りたいて言っつてんじゃん!!!』

『ええ???そんなに怒るう???むしろ、ここはお勧め言っつ所じやん』

『ああもう。あれだよ。あれ。あのお……カレーかな』

『はい。どうも。当たり前な事言っつてくれて』

『……』

紅茶は話しを進めた。

『事件が起きた時あなたはどこで、何をしましたか???』

『私は、厨房でカレーを食べてました』

『作っていたのではなく、食べていた???』

『はい。そうっつです』

『なんで???ねえ???何でなの???お昼休憩かな???店主だよね???店の主だよね???』

『基本的には私は食べてはっかですから』

辛口は満面の笑みだ。

紅茶は軽くムカついたが話を進めた。

『ちなみに何を食べていましたか???』

『はい。お客さんの食べ残しを』

『え????もう1度言ってもらっていいですか???』

『だから!!!お客の食べ残しだって!!!』

『お前何してんの???バカなのか???もう店たたんじまえよ!!!』

『私は料理は一切できなもんで。もう食べる事しか』

『何で店主なの???』

『何でって言われても……ん……まあ、なんとなくですよ』

辛口はなぜかこの質問だけは、すんなり答えなかった。

紅茶はその一瞬の隙を逃さなかった。

『辛口さんよお。しっかり答えてもらわんと困りますなあ。』



なぜか紅茶は豹変した。

『何で店主になったんですかのお???おお???あぁ???』

辛口はなぜか、汗がハンパないぐらい出ていた。

もう見るだけでも、気持ちが悪い。

辛口は汗を拭きながら喋り始めた。

『店主に…なったのは…その…つまりですね…あれなんです』

『なんなのさ???早く言っただらんなさ』

紅茶はかなり強気だ。

辛口はかなり弱気だ。

『店主になったのは……………』

『何で???』

『あいつに脅されて』

『あいつ???』

『殿とのですよ!!!』

『ななななんだって???』

紅茶は完全にノリで驚いた。まったく理解していない。

ここは、驚く所だよなあの感覚で驚いただけであった。

紅茶は、バレないように慎重に辛口に殿とは誰かを聞き始めた。

『あいつに脅されてたんだな!!!』

『…はい』

『その、ポーノは何処にいるんだ???』

『殿です。何でおいしいって言うてるの???』

『わわわわざとじゃないか。べべべ別にききき気にすんなよ!!!』

『何で焦ってんですか???』

『ええ???ぼぼぼ僕がかい???ジヨジヨの奇妙…冗談じゃないよ!!!焦ってないから』

『ジヨジヨの奇妙???いや、完全にシドロモドロへドロしてるじゃないですか???』

『ししししてねえよ!!!っーかへドロいらねえじゃん』

もう紅茶はバカだ。焦ってるのバレバレじゃん。  
でも、紅茶はバカ正直だからまだ焦ってるの気付かれてないと思っ  
ている。

バカ正直な紅茶は話しを続けた。

『でで、で、殿は何処にいるんだよ???'』

『いや、いるって言うか、もう死にましたけど』

『え???'』

『それで来たんでしょ???'』

『んうおお!!! そうだよ!!! 何言ってだよ!!! 当たり前じゃ  
ん』

紅茶は今頃になって気付いた。

今回の事件で殺害されたのが殿だったと言う事が。

『じゃあ、お前殿を殺害する動機が丸出しだから、もう逮捕で』

『ちょちょちよつと待って下さいよ!!! 私はやってないですよ!  
!?!?』

『もついいじゃん。ラフになるっ』

『私は楽になりたいの!!!』

『じゃあい〜じゃあ〜ん。逮捕で』

『そうゆう意味じゃなくて。早く事件解決してもらって楽になりたいんですよ!!!』

『お前も粘るねえ。しつこいわっ!!!』

紅茶はもう辛口が犯人だと完全に決めていた。

でも、辛口はしきりに厨房でお客の食べ残しを食べていたと言う。

ちなみに、その時、殿はテーブルでポークカレを食べていたと言う。

紅茶は辛口が絶対に犯人だと思っているが、とりあえず他の人達の話しも聞く事にした。

『ったく。もう犯人わかってるから他のヤツの話し何てどうでもいいのに。』

まあこれも仕事だからな。正義を背負ってるからなあ』

とりうあえず辛口は奥の席に戻ってもって紅茶は元気に次の人を呼ばせよ……

『元気!!!次の人を……なんてこったあ』

紅茶は私の目を疑った。まさか??? そんな事ありえない。

今まで元気と一緒に仕事をしてきて始めての光景だった。

紅茶の目に映ったのは、元気がすでに次の人の事情調査をしている姿だった。

紅茶は、少し感動して涙が出そうになったが

男の子だもん!!! 泣かないから!!! っと心でつぶやきトイレに行って結局泣いた。

続く。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3367c/>

---

おはようココ日本。

2010年10月15日22時03分発行